

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

- サービス向上への3ステップ -  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取り組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
 (他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 ぐるうぶほうむ3丁目

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名 喜井 茂雅

評価完了日

平成 19 年 4 月 13 日

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月15日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870103870		
法人名	有限会社 スローライフ		
事業所名	ぐるうぶほうむ3丁目		
所在地	松山市東野3丁目11-16 (電話) 089-977-0871		
管理者	喜井 茂雅		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5-19扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年4月26日	評価確定日	平成19年6月15日

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある民家改修型のグループホームで、事業所内も一般家庭と変わらないしつらえとなっており、馴染みある環境の中に住まうことが利用者個々の落ち着いた暮らしにつながっている。また、2階の居室部分を事務所にされ、1階に居室を増築するなど災害対策について柔軟に対応されている。  
職員は利用者を敬う気持ちを大切にされ、個々に違う「あたりまえの生活」を支援しておられる。  
法人代表者は、認知症介護の指導者でもあり、認知症の理解や認知症のケアの向上に向けて県や市とともに取り組まれている。

### 【質向上への取組状況】

#### 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

・前回の評価結果について改善計画を作成し、年間を通じて取り組まれている。特に、ご本人の様子がよく分かるご家族宛のお手紙等は、ご家族に喜ばれている。

#### 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

・事業所では、職員にサービス評価の各項目の内容について分かりやすく説明し、全職員で自己評価の作成に取り組まれた。

#### 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)

・運営推進会議時には、出席者とテーマにこだわらず意見交換がなされている。利用者も全員参加されており、出席いただいた方達と顔見知りになった方もいる。

#### 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)

・ご家族の意見をたくさん聴くことができるよう、事業所側からご家族のお宅を定期的に訪問されている。ご家族との関係性を深めることでご家族の方からの声がたくさん聴けるようになった。

#### 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

・地域の方々に花や野菜を頂いたり、夏祭りに声を掛けていただいたりするなど、地域活動へ参加をされている。

### 【情報提供票より】

(平成19年4月13日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成16年3月10日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.9人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	18,000~25,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		
(3)利用者の概要 (平成19年4月13日現在)			
利用者人数	7名	男性 0名	女性 7名
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 81.85歳	最低 67歳	最高 97歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定	(あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護	
指定	あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護	
届出	あり・(なし)	短期利用共同生活介護	
加算	(あり)・なし	医療連携体制加算	

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			自分が自分らしく、今までと同じ暮らしを続けていけることを理念としている。		理念は最終目標であり、またいつまでも達成できるものではなく、目指しつづけるものであることから、常に目に入るようにし、意識の確認を行うようにしている。
			(外部評価)		
			利用者のこれまでの人生を大切に一人ひとりを支えていくための理念が作られている。理念に基づき、地域とのつながりも大切にしていきたいと考えておられた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			日々の実践の中やケアプランの作成、課題の解決など多様な場面の中で理念に基づいたケアの実践が行えるよう職員間で話し合い、取り組んでいる。		スタッフ全員で理念の意味を考え、日々の中で必要な目標を作れるようにしていきたい。
			(外部評価)		
			管理者は、事業所の理念に基づきケアを行えるよう職員に話しをされている。職員は、行動目標「一日一膳」「一日一笑」を掲げ、利用者個々が心地良いと思えるような環境作りに取り組まれていた。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族の方と毎月対話するよう心がけ、認知症への理解や支えあいについて話し合っている。		地域の方々には民生委員の方には運営推進会議を通して理解が得られるよう働きかけている。しかし、地域全体への取り組みとして発展させていきたいので今後はその輪をひろげていけるよう取り組むよう考えている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の方とは挨拶などはするが、それ以上の交流はされていない。		近隣の方々や地域の方々の認知症やグループホームへの認識はまだまだ不十分なところもある。地域活動等を通してもっと理解を得られるように働きかけたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の方々に花や野菜を頂いたり、夏祭りに声を掛けていただいたりするなど、地域活動への参加を行っている。 (外部評価) 運営推進会議の回数を重ねるごとに出席者に事業所の理解が深まっている。また、今後、民生委員の方等を通じて地域の方達とも関係を深めていきたいと考えておられた。		地域の一人としての地域活動への参加はまだ不十分であると思われる。自治会や祭り以外の地域活動への参加についても積極的に参加できるよう地域と交流を深めていきたい。 今後、事業所では、地域の方達が事業所を訪ねて来られるような機会作りや行事なども作りたいと検討をされている。また、近所の幼稚園と交流できるよう働きかけなども検討されていた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の中で、地域のお年寄りのボランティアなどを受け入れ、楽しみを持てる場として欲しいという意見が出ている。		地域の方よりの意見として受け止め、実際に行なえるような体制を整えるよう職員間で検討し行いたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を行う意味についてミーティングで話し合い、自己評価について職員全体での話し合いを行い、現状に満足することなく、より良いケアについて取り組みを行っている。 (外部評価) 事業所では、職員にサービス評価の各項目の内容について分かりやすく説明し、全職員で自己評価の作成に取り組まれた。前回の評価結果について改善計画を作成し年間を通じて取り組まれている。特に、ご本人の様子のよく分かるお手紙をご家族宛に送られていることについて、ご家族が喜ばれている。		評価項目だけにとらわれず、実際に住まわれているお年よりの目線での評価を考え、それに対する取り組みも行いたいと考えている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	(自己評価)			
			運営推進会議を開催し、その中で出された意見については改善を図れるようにしている。			昨年度の4回の開催では主にグループホームの理解を得ることが中心になってしまっている為、もっと多様な意見が出されるような会の運営をするとともに、参加者について検討し、色々な意見の元で質の向上について検討していきたいと考えている。
			(外部評価)			
			運営推進会議時には、出席者とテーマにこだわらず意見交換がなされている。利用者も全員参加され、出席いただいた方達と顔見知りになった方もいる。		今後、運営推進会議にいろいろな方に出席いただき、いろいろな方からの意見を聴けるような取り組みを検討しておられる。	
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価)			
			地区の地域包括支援センターが開催する地域運営会議に参加することで松山市の担当者との意見の交換を行える機会をつくっている。また管理者は市との交流を密にとっており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
			(外部評価)			
			地域包括支援センターの催しの案内が届くようになった。管理者は、介護認定審査委員や研修の講師としても地域の認知症ケアの向上のために市と協働されている。			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)			
			地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っており、職員間での話し合いもなされている。また必要な人には活用できる体制が整っている。			スタッフ間でも十分に活用が支援できるよう学習の機会や研修への参加を積極的に行なうように考えている。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)			
			虐待防止関連について学ぶ機会を持っており、ミーティングやカンファレンスの中で職員間での話し合いもなされている。			スタッフにも十分に理解が得られるよう学習の機会や研修への参加を積極的に行なうように考えている。また繰り返し考えたり、学ぶことが大切である為、自施設内でも勉強会の実施を行っていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時ともに家族への説明を十分に取るようにしている。またその時だけでは十分ではないので、毎月の話し合いの中で疑問点などには答えていけるようにしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者と個別に聴き取りをする機会をもち、訴えや不満、気持ちを聴き取り、運営に反映するようにしている。		アセスメントシートを改善し、さらに利用者の声を大事に出来るように新たな取り組みを始めている。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月ご家族には写真入りの手紙を作成し、お送りしている。またできるだけご家族との対話を行えるようにしている。 (外部評価) ご本人の様子を書いた手紙に写真を添えて、毎月、ご家族へ送付されている。病院受診時の報告の方法については、事前にご家族と相談され、希望に沿った報告がなされている。		ご家族の来訪時に新人職員の紹介をされているが、今後は、毎月のお手紙で職員の紹介等を知らせるような取り組み等も検討されていた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームではなかなか言い出せにくいことや、意見、苦情について個別に対話する機会を持ち、それらを運営に反映させている。 (外部評価) ご家族の意見をたくさん聴くことができるよう、事業所側からご家族のお宅を定期的に訪問されている。ご家族との関係を深めることでご家族の方からの声がたくさん聴けるようになった。		今後、家族会等、家族同士が交流できるような機会等も作りたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを行い、意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 外出や日中活動を好まれる利用者が多い為、日中の職員を多くし、不測の事態などによる場合には職員間で協力し対応するようにしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動等による影響は無いよう、必要最低限にしているが、離職に関わる場合の問題が残っている。		離職による影響を防ぐ為に、新しく入られる方を利用者の方に紹介するようにはしている。さらに影響を少なくするように、入れ替わりを最小限にするとともに、影響の少ない交代方法を検討していく。
			(外部評価) 新人職員や退職する職員は、利用者一人ひとりにきちんと挨拶をされている。職員同士や利用者との関係がうまくいかないような場合には、法人内の異動等も検討されている。新人職員の歓迎会などもされている。		さらに今後も、離職を最小限に抑えるための取り組みについて話し合いを重ねていかれることが期待される。
5.人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の要望などに応じて、必要な研修や伝え方を検討している。新しい職員には研修交換記録に記入してもらい、教育係がコメントするとともに、それに対して管理者がコメントするようにしている。また、主任は他ユニットの主任と会議をする機会をもち、相互に切磋琢磨できるようにしている。		職員の不安や要望などに応じて相談できるようリーダー、サブリーダーを配置し、職場内研修の活用をもっと行えるようにしていく。
			(外部評価) 新人職員は、法人内の新人研修を受講するようになってきている。研修受講時は、その都度報告書を作成し、先輩職員がコメントするようになっており、そのことがお互いのスキルアップの機会となっている。外部研修にも積極的に出席されている。		今後、職員の行動等を記録して分析するような研修なども考えておられた。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県協会の主催する相互評価事業へ参加し、ネットワークや交流がとれる機会をつくっている。また他事業所の研修を積極的に受け入れ、新しい気づきや意見交換をする事で、質の向上が図れるようにしている。 (外部評価) 相互評価や他のグループホームの研修の受け入れ等、他事業所とかかわりを持つ機会を積極的に作っている。その後も交流をされており、事業所同士のネットワークを広げておられる。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員個々との対話を持つようにし、必要な場合にはゆっくりと話し合いを持つようにしている。人間関係などによるストレスなどが無いよう、相談に応じるようにしている。		職員が一息つけたり、個別の悩みを聞く場としてのスペースの確保を検討している。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 就業規則の作成や、健康診断の実施を行っており、健康状態への配慮を行うとともに、職員からの希望や要望に応じた取り組みへの支援を行っている。また年に1回業務についての自己評価を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前には本人、家族と会い、できるだけ多くの情報と、思いを聞くようにしている。また、入居後の不安を少しでも軽く出来るように、信頼関係を築けるよう支援を行っている。		主任やリーダーだけではなく、日々支援していくスタッフとの関係を入居前からつくれるよう、入居前に担当者を決め、利用者や家族に会いに行く機会をつくる。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前には本人、家族と会い、できるだけ多くの情報と、思いを聞くようにしている。また、入居後の不安を少しでも軽く出来るように、信頼関係を築けるよう支援を行っている。		主任やリーダーだけではなく、日々支援していくスタッフとの関係を入居前からつくれるよう、入居前に担当者を決め、利用者や家族に会いに行く機会をつくる。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族との話し合いの中で十分に話を聞くことを大切にし、その相談に対応できるようにしている。また必要な場合には近隣のケアマネージャーや地域包括支援センターとともに対応できるようネットワークづくりができています。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人、家族にホーム内の見学に来ていただいたり、管理者が何度か本人とお会いする事で、安心感を持っていただけるように配慮している。 (外部評価) 入居前にご本人やご家族に見学に来ていただいたり、管理者が何度かご本人を訪問され、馴染みの関係を築きながら入居していただけるよう取り組まれている。		ホームに何度か遊びに来ていただいたりすることで、利用者同士の交流が持ちやすいようにすることで、さらに安心したサービスの開始が出来やすくなるよう取り組みを行う。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事、掃除、洗濯など生活の色々な面で利用者とともに活動し、その中で色々な暮らしの知恵を教えていただいている。また利用者がその力を振るう場面を職員がつくりだしている。 (外部評価) 職員は、利用者のその時その時の気持ちを大切にされており、時に起こる利用者間のトラブル時には、職員がさりげなく精神面のフォローをされている。		さらに利用者一人ひとりのバックグラウンドを知り、得意なことや出来る事を出していただくことで関係をより深められるよう、アセスメントを行い、場面をより多くつくりだせるようにしていく。 さらに、今後も利用者のダメージコントロールができるよう職員で意識していきたいと考えておられた。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の様子などを手紙や面会時の対話の中で伝え、その中で共に本人を支えて行く為に話し合いを設けている。		さらに利用者と家族の関係や交流を深める為に、家族と合同の行事の開催などを行い、その中でともに支えあう関係作りを行えるようにしていく。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者との関係性を理解し、それに合わせた個別の支援を行えるようにしている。		家族の方々には、それぞれの事情などもあり、それらを含めて今後の関係性の支援をどのようにしていくかを検討していく必要がある。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今まで行っていた美容室に行ったり、本人の自宅の清掃やお墓参りに一緒に行ったりなど、これまで大切にしてきたものを継続して行なえるよう支援を行っている。		さらなる個別の支援として、もっと本人の想いやしたい事を知り、それがかなえられる支援ができるよう、アセスメントをする様にしている。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、交流や家事の場面でも利用者相互の関係性やトラブルが無いように支援を行っている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後の関わりは年賀状を出したりなどはしているが、それ以上のことは現在できていない。		契約終了後の関わり方がより深い物としてできるよう、終了時に密な話し合いを持つようにしていきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			利用者一人ひとりの思いを把握できる様、個別の聴き取りを行っている。		スタッフ全員で思いの把握をより十分に行えるよう、アセスメントの様式を変更し、取組みを行っている。
			(外部評価)		
			ホーム独自のアセスメントシートを作成し、さらに、利用者個々の状態に応じた細かなアセスメントを行い、利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるようにされている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			利用者一人ひとりの生活歴について、ご本人に日常の会話の中で聞いたり、入居前にアセスメントしたり、家族との対話の中で聴き取るようにし、把握できる様に努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			利用者一人ひとりの毎日の暮らしの中から、様子や残存能力、心理的な部分を把握するようにし、スタッフ間で話し合う中でお互いに気づき合えるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			介護計画をスタッフ間で話し合い、それぞれの意見を反映させた作成に取り組んでいる。また家族からの意見や聴き取りで得た本人の想いを介護計画に反映できる様にしている。		さらに本人の想いを介護計画に反映できる様、想いを聴き取るアセスメントを作成し、取り組んでいる。
			(外部評価)		
			介護計画は、ご本人、ご家族、職員の意見を反映し、思いや意見等を大きく捉えて作成されている。さらにその計画から必要なアセスメントを行い、ケアにつなげていくようにされている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			介護計画の期間を1ヶ月単位とし、短期間で解決できる短期目標を設定する事で、達成感を関係者で感じ取れる計画作成に取り組んでいる。また、毎月話し合うことで、より現状に即した計画作成が行えている。		
			(外部評価)		
			介護計画は、一ヶ月ごとに見直しされ、ご本人の現状に即したケアを行えるよう取り組まれている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個別にファイルを用意し、個々の状態に応じた記録の取り方を行っている。また、情報を共有できる様スタッフ全員で記録は毎日見直しするようにし、気づきの共有が出来るようにしている。		個々の記録に気づきや対応方法、変化を記入しやすいよう様式を変更し取り組みを始めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			本人や家族の状況に合わせた柔軟な対応を行えるよう心がけている。御家族間の急なご用事等によるご本人への対応にも対応している。また医療連携体制にてご本人の体調の変化にも対応できるようにしている。		地域の方々にとって安心できる場所作りを行えるよう、デイサービスなどの活動を今後検討していきたい。
			(外部評価)		
			職員は、利用者の通院時や美容室利用時に同行されている。また、ご本人が身内の仏事等へ出席できるよう事業所側でも対応されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人の意向にて警察との話し合いの希望に電話などで対応していただいている。		消防署との協力体制や、公的機関のみではなく、地域資源やボランティアなどによる協働にて地域で当たり前な生活を送れるような支援ができるよう話し合いをもっていく。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現在他のサービスを利用する事はしていないが、ご本人の希望に合わせて対応するようにしている。		利用者の選択性が増えるよう、利用できる他サービスの内容や種類を増やしていけるように、検討して行く。さしあたって、近隣の事業所のボランティア行事への参加を計画中である。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、交流が持てるようになっている。また地域包括支援センターが開催する地域ケア会議への参加も行い、協力体制は取れつつある。		地域情報や支援に関わる情報交換を積極的に行い、利用者や地域の方々にひらかれたホームづくりが行えるよう、関係を強化して行くようにする。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人が信頼するかかりつけ医の診察が受けられるように支援を行っている。  (外部評価) 利用者個々は、ご本人ご家族の希望するかかりつけ医を受診されており、受診時には職員が同行し、医療機関と情報交換を行っている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症に詳しい医師との協力医療機関契約を結び、診察や治療、相談に応じていただけるように支援している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 利用者を良く知る看護職員を雇用し、日常の健康管理や緊急時の対応、状態変化時の相談などを行えるようにしている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した場合には、入院先の病院関係者や担当医と話し合いの場を持っていただくようにし、安心して過ごせるようにすると共に、早期の退院や適切な退院後の援助が行えるようにしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合や、状態が変化した場合には早期にご家族、本人、関係者との話し合いの場を持つようにし、これからの方針について共有できるようにしている。 (外部評価) 事業所では、ご本人の状態が変化した時等、その都度、本人ご家族と話し合いを行なっている。利用者ご家族が満足できる暮らしを支援していくために管理者は、各関係者との連絡を密にとりながら対応されている。		日常の中や普段の中ではなかなか話しにくい部分でも有り、また、実際の場面となったときの心境の変化もありえるので、色々な場面を想定しての対応方法について検討を重ねて行く必要があると考えている。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族の意思を大切にし、終末期が訪れた場合には繰り返し話し合いを持ち、安心して納得した最後が迎えられる体制を整えている。また、緊急時に対応していただける医療機関も確保できている。		その時々状況により、体制としてこれで十分と言う事は無いので、あらゆる場面を想定し、常に検討を繰り返し、対応できるように向上して行く。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 利用者が他の事業所などに移り住む際には、アセスメントやケアの注意点、支援状況などについて情報交換を行うと共に、リロケーションダメージを最小限に抑えるための対策を他事業所と検討するようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人情報についての注意について話し合いを持っており、プライバシーの確保についての注意を常日頃から話し合っている。</p>		<p>常日頃の関わり方や声掛けの一つ一つまですべてプライバシーの確保が出来ているわけではなく、あらゆる面での利用者の尊厳の保持を確立できるように職員全体での勉強会を繰り返す必要がある。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>職員がすぐに対応できない時は「今度ね」ではなく「日にね」と約束するようにされている。調査訪問時、利用者の状態のこと等について職員同士の会話が周囲に聞こえてくるようなこともあった。</p>		<p>今後、さらにその人らしい暮らしを支えていくという点からも物、人、音への意識を大切にできるよう研修等もすすめていきたいと考えておられた。</p>
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々に合わせた声掛けであったり、選択性を持たせた声掛けなどに注意し、自己決定の支援に取り組んでいる。</p>		<p>一日の生活全てに利用者が決定しているわけではなく、職員が決めてしまっている事もあると思う。利用者の生活である事から、全てにおいて利用者が主体決定できる生活環境をつくることを目指していく。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>時間的を区切った過ごし方はせず、買い物や散歩、その他寝る時間等の一日の過ごし方などその日のしたい事や、過ごし方を支援している。</p>		<p>毎日利用者一人ひとりがそれぞれにしたいこと、いきいたいところが可能となるような過ごし方が出来るような支援の仕方を検討していくようにする。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>散歩や日向ぼっこ等、ご本人の希望を聞きながら個々の暮らしを支えておられる。</p>		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服は利用者自身が自由に決めていただくようにし、毎朝鏡の前で皆さん整容されている。個々の希望にて行きつけの美容室に行かれている。		お化粧品などを普段から楽しみとして行ええるよう支援したり、利用者がおしゃれへの関心が引き立てられるような職員のおしゃれなどにも取組みたいと思う。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聞いたり、味付けをみて頂いたり、準備・片付けなどを一緒にする等食事が楽しくなるよう支援している。 (外部評価) 利用者と職員と一緒に食事の準備や食事、片付けをされていた。調査訪問時、庭に生えているユキノシタの天ぷらや利用者手作りの漬物も食卓に上り、会話なども楽しみながら食事をされていた。		その日食べたい物が利用者の口からもっと出るような働きかけの工夫ができるよう、普段からの声掛けを工夫していくようにしてみる。「なんでもいいよ」と言う言葉が多くみられる事から利用者主体の食事にはまだ行き着いていないと考えている。 今後、献立を利用者も一緒に考えながら立てていくことを目標とされていた。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒や飴など本人の嗜好となる物のアセスメントをとっており、日常の中で楽しめるようにしている。		自ら訴えられる方の嗜好は確保できているが、訴えの少ない方の嗜好の楽しみも十分に行えるようさらにアセスメントを深くとり、日常の中で取り入れるようにしていく。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。		現在、排泄の声掛けや誘導が必要な方は少ないが、将来増える可能性はある。その時に適切に支援できるよう勉強会を重ねておく必要はある。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の希望を確認して声掛けを行っている。拒む方に対してはどのように声掛けすればよいかスタッフ間で話し合い、解決策を考えている。個々の好みに合わせて順番や入浴時間を調整している。		入浴を好まれる方にはもっと入浴の回数を増やしたり、自由に入れる環境作りを行っていく必要がある。日中の生活の状況を見直し、さらに楽しむ事の出来る入浴を支援していくようにする。
			(外部評価) 入浴に気がすすまないような方にもタイミングをみながら声かけの工夫をされている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や生活リズムに合わせて、休息が出来る支援を行っている。また、夜間にゆっくり休めるよう個々のリズムに合わせて休息時間に配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意な物や好む物に合わせて、掃除や洗濯、庭や畑の手入れ、漬物作りなどの役割分担を行っている。		役割はそれぞれにあるものの、個々の楽しみをもっと増やせるよう検討中である。現在ではスタッフによる足湯の作成を行っており、楽しみのひとつとして活用を試みている。
			(外部評価) 掃除や洗濯等の家事や庭や畑の手入れ、また、漬物作り等、利用者の得意なことを事業所でも行えるように支援しておられる。利用者の居室で他の利用者とおしゃべりされたり、お茶を楽しまれている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額のお金を家族の同意を得て、持ってもらっている人はいる。買い物などの中で、その中から自分で払ってもらうよう支援している。		全員が自分で持っているわけではない。今後は利用者全員が自分で所持しているお金で自分の楽しみをもてるよう支援できるように改善していきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 月に1回は利用者全員での外出を企画している。また、個々の好みに合わせての買い物などに出かけている。 (外部評価) 利用者の希望等をうかがいながら、日々散歩や買い物に出かけておられる。また、利用者と職員が話し合い、毎月外出が計画されている。5月はさつき展に出かける予定もあり、利用者も楽しみにされていた。		外出はされているが、頻度としては少なく感じている。日常的な近所の散歩だけではなく、毎日の楽しみとしての外出を増やしていきたい。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 月に1回の行事としての外出はまだまだ近隣が中心である。		個別もしくは全体として希望のある場所への外出を増やしていくように考えている。現在は温泉などを計画として考えている。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて電話や手紙を書くことは自由に出来るよう支援している。		希望のない方にも内面で希望を持っているかも知れないという事を考え、日常会話の中からアセスメントを行い、希望がある場合には連絡手段としての支援が出来るよう環境をつくるようにする。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間などは特に定めず、自由に来て頂けるよう説明を行っている。訪問があったときには近況の報告などを行い、居心地良く過ごしていただけるよう配慮をしている。		訪問者用のスペースなどはスペース上特に設けてはいない。環境面的には困難であり、居心地の良い雰囲気自己満足にならないよう配慮していきたいと考えている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で身体拘束に対する理解を深め、身体拘束をしないケアを大切にしている。		状況などの中で「ちょっと待って」という言葉はある。精神的な部分やスピーチロックとなる部分についての取り組みをさらに勉強会を重ね、取り組むように考えている。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 個々の利用者の状態やそれぞれへの対応方法を検討している事で、日中に玄関に鍵をかけることなく支援を行っている。 (外部評価) 日中玄関は開放されている。居室の窓から外に出られるようになっており、好きな方は、お花を育てておられた。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) リビングでホーム内の見渡しをすることが可能であり、居室から出てこられた方への見守りができている。また自室で過ごされている方に時々声を掛け、所在や状況の把握をできるようにしている。		利用者の状態の変化などに応じ、安全面での配慮は検討を続ける必要はある。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品については職員間で認識しあい、注意を向けるようにしている。また、個々の利用者の状態に合わせて、注意しないといけないものを確認し、危険の無いように取り組んでいる。		さらに今後の利用者の状態の変化に合わせて、新たに注意が必要な物をアセスメントして行く必要がある。定期的な見直しで危険を防ぐように取り組んで行く。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 利用者個々の状態から予測される危険について話し合い、注意できるよう日々の中で話し合いをしている。		利用者個々の状態は変化して行く為、定期的な見直しが必要である。また、日常の中で気づく危険もある事から、ヒヤリハットなどの取り組みを早急に行うように考えている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応としてのマニュアルを作成しており、勉強会にて職員間で話し合っている。		話し合いだけではなく、実技を含めた勉強会を実施するように検討中である。実際の場面では、冷静な判断を行うことが難しくなるので、繰り返し練習を重ねておくように取り組みたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害時における体制や避難について職員間で話し合いを行っている。  (外部評価) 災害時の体制や避難について職員間で話し合われている。また、環境面についても2階の居室部分を事務所にされ、1階に居室を増築するなど災害対策として柔軟に対応されている。		消防署の協力にて避難、通報、消火の訓練を実施する予定になっている。また運営推進会議を通じて、近隣住民との協力体制について話し合う予定となっている。  5月に消防署の協力を得て避難訓練等実施の予定となっており、いざという時に慌てずに対応できるよう対策に向けて検討する機会とされることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 毎月の家族との話し合いの中で、今現在、これから起こりうるリスクについての話し合いを行っている。また、取り組みを行なっている事でのリスクについても理解が得られるよう話し合いを持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 利用者一人ひとりの既往などについて把握し、毎朝バイタル測定を行うと共に、日常の中で普段と変わった様子がないかチェックをするようにしている。		バイタルサインだけに囚われず、また、利用者のいかなる変化にも対応できるよう勉強会を常に持ち、状況判断や対応が出来るように取り組んで行く。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の服薬資料を作成し、職員が把握できる様にしていく。また服用は一人ずつ手渡し、きちんと服用できているか確認をするようにしている。		薬に対する認識をもっと高くし、副作用などについてもきちんと全員で理解できる様勉強会を継続的に行うようにする。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 利用者それぞれの状態を把握し、個々に合わせて牛乳を飲んでいただいたり、体を動かしたり、入浴時に腹部のマッサージをするなどの対応を行っている。		便秘の対応として、まだ薬や浣腸などの使用があるので極力使用しないですむよう食材などの見直しを行なう。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の能力に合わせて声掛け、見守り、介助を毎食後行なっている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量をチェックすると共に、毎月の体重を計測し、食事量の確保を行っている。また利用者の状態や好みに合わせて食事量を調整している。		
			(外部評価) 毎食、一汁三品を目安に献立を立てておられる。利用者個々の食事摂取量の把握や、状態に応じては、水分量もチェックされている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し、予防としてまな板や包丁などの調理道具は毎晩殺菌を行い、利用者、職員共にインフルエンザの予防接種を行っている。		衛生面の注意は常日頃からの認識により、発生の減少を生むことが出来ると考えており、繰り返し学ぶ機会を持つことで徹底した衛生管理が出来ていけるよう、継続した勉強会の実施を行って行く。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>まな板や包丁、布巾など毎晩漂白し、殺菌をするようにしている。冷蔵庫も清潔を心がけ、整理整頓するようにしている。食材の種類により、冷凍するなどの対応も行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>民家そのままの玄関で馴染みやすい環境で有ると共に、プランターに花を飾ることで親しみやすい環境づくりを行っているが、道路から玄関への部分に入りやすい取り組みをする必要がある。</p>		<p>道路からの入り口には看板があるだけなので、自由に入れるよう花を飾ったりするなどの工夫を検討中である。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>狭い空間を利用し、生活の音や匂いが全ての居室に届くようになっている。また利用者と共につんできた季節の花を飾ったり、縁側から庭を望むことで四季折々の風景を楽しみ、季節感を取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>庭の縁側から四季折々の風景が眺められる。また、居間のテーブルには季節の草花が活かされていた。民家改装の事業所であり、一般家庭のような造りとなっている。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>縁側で過ごしたり、庭にテーブルと椅子を置いたり、また縁台を設置する事で思い思いの場所でそれぞれ過ごす事ができるように配慮している。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			利用者個々に合わせて、馴染みのタンスや調度品などを居室に置き、落ち着いて過ごせる部屋作りに取り組んでいる。		全ての利用者への取り組みがされているわけではなく、利用者の中には自室内のものが少ない方もおられる為、今後はその方たちへの取り組みを検討して行くようにしている。
			(外部評価)		
			居室には、ご本人の馴染みのものが多い居室と、少なめの居室がある。		さらに、利用者個々がより居心地良く過ごすことができる居室のしつらえについて話し合い、今後も工夫を重ねていかれることが期待される。
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			窓は定期的に関閉して換気するようにしている。暖房としては石油ストーブを使用しているのでやかんを置き、湿度への対策をすると共に、換気を十分にするようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			民家をそのまま活用し、馴染みの環境を大切にしているが、そのため段差などはそのまま活用し、生活リハビリとしている。昔ながらの建物なのでシンクの高さなどはお年寄りに適した高さになっている。		利用者の状態に合わせ、随時環境面での見直しは必要である。今現在の雰囲気や馴染みの環境を大切にしつつ、状態に合わせた安全面の確保をその都度検討するようにしている。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			利用者一人ひとりの認識力を把握するとともに、馴染みの環境づくりによって、混乱や失敗を防ぐようにしている。		現在では目立った混乱などは起きていないが、今後利用者の状態により混乱や失敗が起こる可能性はある。状況に合わせ、その都度職員間で検討し、不安の無い生活が送れる様に支援を行う。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			建物の周りには庭や畑があり、畑での作業や庭の椅子に腰かけて過ごしたり、縁台で足湯ができるように取り組んでいる。また利用者の希望で外でお参りが出来るように祠を作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③利用者の1/3くらいの 4ほとんど掴んでいない	利用者の思いや願いを大切に、日々の生活の中で達成できるよう目指しているが、思いの全てを把握していくにはもっと時間をかけて信頼関係をつくりながら、少しずつ知るとともにひとつずつ達成できるように取り組む必要があると思う。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2数日に1回程度ある 3たまにある 4ほとんどない	利用者と一緒にゆっくりと過ごす時間を、縁側で日向ぼっこであったり、散歩であったり、一緒に食事をするときなど必ず毎日持つようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	一人ひとりのペースを把握し、それぞれに合わせた暮らし方を支援できるように取り組んでいる。しかし日常の全ての中でそれが出来ているわけではないので、今後さらに利用者主体のペースでの生活を支援できるように取り組んでいく。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ③利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	日常の会話と一緒に作業をするときなどに笑顔や、喜びを感じていただいていると思う。ただ表面の姿だけをみて自己満足に陥らないように、常に心配るとともに喜ばれる姿をもっと多くしていきたいと思う。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	個々の希望に合わせてお墓参りや行きつけの美容室であったり、目的のお店への買い物に出かけたりする機会をもっている。しかし、行きたいところの全てへ行けているわけではなく、また全員が行けていないので、今後の取り組みとしていきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	本人の希望する病院への通院を可能とし、不安に思う部分への解決としての専門の病院への受診にも対応を行っている。しかし、利用者の不安を全て解決できるわけではないので、もっと安心した生活を送っていただけよう取り組みを行いたい。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ③利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	利用者の日々の訴えや状況や要望にその都度の対応はなされているが、対処としての取り組みに陥りやすい。原因をきちんと把握し、少しでも不安や困った事を減らしていけるように計画とチームアプローチとしての取り組みを出来るよう支援していきたい。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ②家族の2/3くらいと 3家族の1/3くらいと 4ほとんどできていない	利用者の近況の様子や日常生活についての家族への連絡や相談への対応を行っているが、制度的な面などになると管理者に頼ってしまう部分がある。職員一人ひとりが把握し、あらゆる面で相談に応じれる体制作りを取り組みたいと考えている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 2数日に1回程度 3たまに ④ほとんどない	グループホームに家族以外の方の訪問は少なく、利用者の知人や近隣の方々に自由に来て頂ける環境作りを取り組む必要がある。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を始めた段階に比べると、地域の方々とのつながりが出来てきており、ホーム内の様子を見て頂くことで理解が深まってきていると思われる。最近では地域の行事などについて、情報を頂いたり、招待されることも多くなってきている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は皆一生懸命働いているが、まだまだ新しい職員も多く、解らない事や不安も多いようである。利用者と共に楽しむ行事や取り組みなどを通して楽しみをつくり、意見交換の場を多く持つことで不安の解消を図れるように取り組みたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者個々の思いを実現できる様に取り組んでいるが、一人ひとりの内面を全て把握できているわけではなく、また共同生活の中で我慢している事も有ると思う。それらを少しずつでも解消できるよう日々の中で取り組みたいと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の方の大切な御両親である利用者の生活はもっともっとよりよいものにして欲しいという気持ちは有ると思う。普段の関わりのなかで言われている感謝の言葉に満足せず、このホームを選んで良かったと思っただけのサービスを提供したいと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

ホームは、民家をそのまま利用しており、玄関へ続く階段や玄関、敷居など段差がそのまま残っている。  
日々そこで生活されている利用者の方々はその段差がこれまでの生活と同じ様にある事が当然のように自ら気をつけて生活をされている。また民家をそのまま使用していることで、生活の中で染み付いている雰囲気や、季節の草木が眺められる庭の飛び石や池、縁側が利用者が今まで生きてきた馴染みの環境をつくっている。  
関わりでは、職員は利用者に対し認知症という認識はもたず、一人の人としての関わりを大切にしている。  
一人ひとり違う「あたりまえの生活」を送っていただくことを目標に、いつでも外出したり、自由でのびのびとした暮らしを支援するようにしている。さらに利用者同士の交流を大切にし、お互いが関わりやすい環境づくりに取り組むことで、一緒に居室でお茶を飲みながら話をされたり、一緒に家事をする場面などが多く見られている。